

## 2021年第3回IEEE Japan Council 理事会議事録（案）

日 時：2021年12月17日(金) 13:30～17:15

場 所：住友電気工業株式会社 東京本社 ホール およびオンライン

出席者：橋本 JC Chair、高村 JC Vice Chair、重松 JC Secretary、前原 JC Treasurer、  
小川 札幌支部 Secretary/Treasurer、佐藤(源) 仙台支部 Chair、佐藤(敏) 信越支  
部 Chair、中野 東京支部 Chair、Chaki 東京支部 YP Chair、稲森 東京支部 WIE  
Chair、片山 名古屋支部 Chair、畑 関西支部 Chair、松居 関西支部 Vice Chair、  
丹治 四国支部 Vice Chair、上原 広島支部 Chair、庄山 福岡支部 Chair、末松  
COC Chair、大野 SAC Chair、桑原 AC Chair、河東 IPC Chair、  
尾上 Past Chair、滝嶋 Past Secretary、羽渕 Past Treasurer、白川 HC Chair、  
奥村 LRSC 委員、佐藤(高)MD Coordinator、山田 YP Coordinator、高野 LM  
Coordinator、鈴木 EA Coordinator、野田 WIE Coordinator、福田 IEEE 2021  
Past President、小菅 2020 IEEE Technical Activities Past Vice President、  
南 MGAARC Past Chair、西原 R10 Past Director

(順不同)

オブザーバ：Japan Office 百武氏、Japan Office 梶川氏  
事務局、幹事会社事務担当

### 議題：

1. 前回理事会議事録の確認（審議） 資料（1）
2. 2021年Japan Council 活動報告 資料（2）
3. 2021年Japan Council 決算予想 資料（3）
4. 常設委員会 2021年活動報告、2022年活動計画案および予算案 資料（4）
  - 4-1 Chapter Operations Committee 資料（4-1）
  - 4-2 Student Activities Committee 資料（4-2）
  - 4-3 Awards Committee 資料（4-3）
  - 4-4 Industry Promotion Committee 資料（4-4）
- 質疑応答（議題1～4）
5. Ad-Hoc 委員会 2021年活動報告、2022年活動計画案および予算案 資料（5）
  - 5-1 Long Range Strategy Committee 資料（5-1）
  - 5-2 History Committee 資料（5-2）
6. Coordinator 2021年活動報告、2022年活動計画案および予算案 資料（6）
  - 6-1 Membership Development 資料（6-1）
  - 6-2 Young Professionals 資料（6-2）
  - 6-3 Life Members 資料（6-3）

|  |           |
|--|-----------|
| 6—4 Educational Activities   | 資料 (6—4)  |
| 6—5 Women in Engineering   | 資料 (6—5)  |
| 質疑応答 (議題 5～6)  |           |
| 7. 2021/2022(注:2023/2024)役員選挙スケジュールおよび<br>Nominating Committee 選出 (審議) | 資料 (7)    |
| 8. 各支部 2021(注:2022)年活動計画および前回理事会以降の活動報告                                | 資料 (8)    |
| 8—1 札幌支部   | 資料 (8—1)  |
| 8—2 仙台支部   | 資料 (8—2)  |
| 8—3 信越支部   | 資料 (8—3)  |
| 8—4 東京支部   | 資料 (8—4)  |
| 8—5 名古屋支部  | 資料 (8—5)  |
| 8—6 関西支部   | 資料 (8—6)  |
| 8—7 四国支部   | 資料 (8—7)  |
| 8—8 広島支部   | 資料 (8—8)  |
| 8—9 福岡支部   | 資料 (8—9)  |
| 質疑応答 (議題 7～8)  |           |
| 9. 2022 年 Japan Council 活動計画 (審議)                                      | 資料 (9)    |
| 10. 2022 年 Japan Council 予算 (審議)                                       | 資料 (10)   |
| 11. その他  | 資料 (11)   |
| 11—1 MGAARC 関連のトピックス   | 資料 (11—1) |
| 11—2 JC Awards and Recognition Committee の新設について                       | 資料 (11—2) |
| 11—3 周年記念イベントに関する意見集約と今後の進め方   | 資料 (11—3) |
| 11—4 情報サーバの利用促進について  | 資料 (11—4) |
| [参考] IEEE Japan Council メール審議記録  | 資料 (11—5) |
| [参考] Region 10 からのメール連絡一覧  | 資料 (11—6) |
| 質疑応答 (議題 9～11)   |           |

議事：

0. JC Chair 挨拶

JC Chair から開会の挨拶が述べられた。

1. 前回理事会議事録の確認【審議 ⇒ 承認】 資料（1）

報告：JC Secretary

前回理事会（2021年7月）の議事録について審議の結果、異議なく承認された。

2. 2021年 Japan Council 活動報告 資料（2）

報告：JC Secretary

各 Chair や Coordinator が執筆した 2021 年の活動報告の紹介。

R10 から連絡があり、10月に提出した Activity Report に対し Incentive を受け取ることとなった。

3. 2021年 Japan Council 決算予想 資料（3）

報告：JC Treasurer

2021年の予算と10月末までの中間会計報告、2021年予測値を記載した。収入は各支部からの拠出金及び R10 Incentive を予定。支出は理事会、各委員会の費用、広告費や SB 支援費、Coordinator 活動費、Section 支援費がメイン。

4. 常設委員会 2021年活動報告、2022年活動計画案および予算案 資料（4）

4-1 Chapter Operations Committee 資料（4-1）

報告：COC Chair

COC ミーティングを6月と11月に開催。COCの職掌の1つである「Award 管理」については現時点での承認数が79件。今年度の重要事項の1つとして Award 登録と Chapter 支援費の申請審査承認を Kintone に移行しており特に問題なく動いている。

Chapter 支援費は来年から東京支部へ移管することを目標にしていたが、2年遅らせ、2024年から東京支部へ移行することを目指したい。

4-2 Student Activities Committee 資料（4-2）

報告：SAC Chair

Japan SYWL Workshop は対面開催となり、学生を派遣した。北海道大学で開催、室蘭工業大学の学生に現地スタッフを依頼した。マンガプロットコンテストは、最優秀賞を1点、優秀賞2点を選定しマンガ化を進めている。各大学の学生数の調査では年が経つごとに人数が増しているのを確認。プロベーションとリゾリューション基準の more than 10 members を満たしていないのが3ブランチあり、引き続き学生会員増加に向けて努

力したい。2022年の活動計画は今年と同様で、来年のSBトレーニングワークショップは対面で行いたい。マンガプロットコンテストも第2回を開催したい。SB新設の促進や活動支援も行うので予算に関しては相談してほしい。SSRの選出については前回理事会でも説明の通り、各支部にてSSRの選出を依頼したい。決定後はR10に報告する予定。予算はマンガプロットコンテストの分も計上済である。

#### 4-3 Awards Committee

資料 (4-3)

報告 : AC Chair

10/22にJC AC全体会合をWEB併用で開催、受賞数の推移分析から各賞の推薦状況について議論した。Award推薦は推薦書をしっかり作成するのが重要であり、Fellow数については減少傾向となっているのが問題。今後は、JC ACを新体制にすることを検討しており、全体会合は年1回(9月-10月頃)開催予定。MedalおよびRecognitionは毎年6/15が切、TFAは1/15が切のため支部と連携して推薦の促進を行う。JC AC全体会合での主な議論は、IEEE Awardsに向けてAC及び支部の役割や課題を明確にすること、Fellow昇格者増加に向けACの役割整理が必要と考えている。しかし、JC AC委員は主にIEEE本部委員(Technical Societyに所属)で構成されており、直接推薦に関わる役割は難しい。重要なのは、Awardsの各Committeeにどの程度日本人のAwards委員が参加しているかである。Fellow昇格者増加には、成功事例の分析、受賞に向けて複数回のチャレンジが重要である。ノミネーターの確保やFellow昇格の前提となるSenior Member昇格者の増加も重要。日本からのTFA受賞者は2件。Fellow昇格者は2020年13名、2021年14名である。

#### 4-4 Industry Promotion Committee

資料 (4-4)

報告 : IPC Chair

委員会を合計3回開催した。10/30のMAW2021、翌日のJapan SYWL WorkshopとLMAGイベント開催を支援した。今年は企業におけるIEEE認知力向上を目的にパンフレットや会員生の声プロジェクトの活用を行った。IEEE Tシャツも作成しているので、活用したい方がいれば申請書を提出して欲しい。IEEE本部IECとの意見交換が、実現。IEC ChairとIPC Chairがそれぞれの活動紹介をし、JC Chairによる教育に関するアンケートの調査説明を行った。2021年の予算執行状況は会議開催費用を申請していたがすべてオンラインとなったので発生せず。インタビュー企画の英語版作成の予算はJC広告宣伝費にて計上。2022年の計画は10/7に開催されるMAW2022(四国支部開催)の支援を予定。翌日はSYWLも開催予定で、四国支部と協力して準備を進める。MAW2023を信越支部で開催すると全支部(9支部)を一巡するため、継続の是非を検討したい。来年度予算は会議費のほか、Team Japanのロゴ入りグッズ制作を検討している。

■質疑応答（議題 1-4）

【質疑】 3. 2021 年 Japan Council 決算予想 資料（3）

Past Secretary：R10 Incentive を頂けるのは嬉しい。Incentive を頂いたこと、使ったことを記すために、0 ではない数字を入れて欲しい。例えば今年の予算に入れるのであれば昨年の Incentive の数値などの暫定的な数字を入れ、来年の予算であれば来年の予算に書くような会計上の記載方針を決めて頂きたい。

JC Secretary：JC Treasurer と相談のうえ、進めていく。

【質疑】 4-1 Chapter Operations Committee 資料（4-1）

Past Secretary：Section と Chapter の連携は是非お願いしたい。根本的に MGA と TA の十分な連携がベースにあった上で、Chapter の財務面含めた Section への運用移行が円滑に行われるようになると考えられる。最近では Fellow や Senior Member 昇格も、MGA と Chapter とが連携すべきとの話があるため、その話も踏まえて全体の計画としてみてはどうか。

【質疑】 4-2 Student Activities Committee 資料（4-2）

MGA ARC Past Chair：マンガプロットコンテスト開催は、今年の成果を見極めてから来年の開催を検討してはどうか。

SAC Chair：今回のマンガプロットコンテストは、7 件の応募があり、学部生の投稿が多かった。SB 活動は大学院生中心の活動のため、学部生の興味を引けたのは大きく、突然プロットを作成するのは難しいため、来年は実際の作品を学生に見せ、プロットを募っていきたい。そのうえで応募数や反響について考えたい。

JC Secretary：年始早々には公開する予定。その反響を見ながら次回の 3 月理事会で承認を得たいと考えている。

Past Secretary：来年は企業連携のアクティビティは予定しているか。

SAC Chair：是非実施したいと思っている。学生に求めていること等を聞いたアンケートもメールで送信しているので、返答頂きたい。

JC Secretary：企業も問題意識を持っている。アンケート結果を含めて打合せをしたい。

5. Ad-Hoc 委員会 2021 年活動報告、2022 年活動計画案および予算案 資料（5）

5-1 Long Range Strategy Committee 資料（5-1）

報告：LRSC Chair

第 3 回 LRSC 会合を 11/12 に開催。会計報告、Fellow 昇格者増加に向けての Webinar 開催報告、JC Awards & Recognition Committee の新設に関する議論等を行った。

10/7 と 12/9 に Fellow 申請者向け Webinar を開催した。第 1 回の聴講者は 110 名（アカデミア：企業=2:1 の割合）となり、発表資料やノミネーションフォームの送付希望者

は 41 名。アンケートの結果、98%の方が満足もしくは大変満足と回答し満足度の高い Webinar となった。2 回目も 104 名の聴講者、36 名の資料送付希望者、満足度は 92%と第 1 回目と同様盛況となった。Webinar は来年も実施希望の声があり、継続して取り組む。今年同様 10-12 月開催と考えており、翌年 3 月の締切に間に合わせるようにしたい。

デジタルの日に係るイベントとして GCCE2021 前夜祭、Engineer Spotlight、IEEE Day2021 等合計 5 件を実施。Fellow 申請は MGA よりも TAB に近い Technical なもので、Chapter の協力を仰ぐことを検討中。Fellow ホームページは内容が古く、来年刷新することを目標にしている。JC AC の見直し議論は LRSC でも議論に協力していきたい。

## 5-2 History Committee

資料 (5-2)

報告 : HC Chair

マイルストーンの発掘とプロポーザルのエンカレッジをメインに取り組んだ。日本で認定済のマイルストーンは合計 40 件となったが、各方面に申請をして頂くようエンカレッジをしている。現在申請中のものが 6 件あり、HC Chair としてなるべく早く進めるよう依頼をしている。

## 6. Coordinator 2021 年活動報告、2022 年活動計画案および予算案 資料 (6)

### 6-1 Membership Development

資料 (6-1)

報告 : MD Coordinator

MD は会員の増加と Senior Member 昇格によってリテンションを上げることを目標にしており、オンライン会議を 2 回開催した。1 回目は MD 活動の情報交換をメインに行い、2 回目はシニアメダル受賞者からの意見集約や各支部間で効果的な活用方法等の意見交換を行った。Senior Member に関わる WEB ページの更新状況について、各支部にリンク切れが無いよう更新を依頼した。今年度の予算執行状況はコロナウイルスの状況もあり、支出は無し。来年度の活動計画は、今までと同様に Senior Member 増加のために情報交換を各支部 MDC で行い、WEB ページを継続的に更新し MD 活動を一層活発にしていきたい。支部イベントがハイブリッド開催のため、全国的に展開し、会員活動の満足度向上や新規会員増加に結び付けたい。

各支部に、シニアメダル授与の際に受賞者から感想を集めるよう依頼している。全体的に好評で、励みになったという感想を頂いた。非常に効果があると思うので、JC 事務局とも相談し、メダルの必要数を調査し来年も同じ手順で発注したい。来年度早々から授与を希望する支部もあるため 120 個を発注している。

### 6-2 Young Professionals

資料 (6-2)

報告 : YP Coordinator

コロナ禍のため、海外へ派遣ができず今年度の予算執行は無し。各 Section (札幌、仙台、

東京、名古屋、関西)の活動はミーティングを多く開催しており、加えて今までノンテクニカルなイベントが多かった中、YPそれぞれの得意分野をレクチャーする活動が多く開催されている。YP Coordinatorが実行委員長となり、Japan SYWL Workshopを札幌で開催した。昨年の1.5倍となる58名の参加となり、イベントに興味のある人が多くいたと感じている。関西YPで「第3回 博士課程キャリアについて語る会」が開催された。イベントを通して、同じ境遇の人と集まることによって自分のポジションを見極め、プレゼンスを主張できる場が提供できた良い会であった。仙台YPは2周年となり、去年より積極的にイベントを開催している。2022年はSYWLの継続的な運営に向け活動方針を決めたい。中国四国九州のジョイントYPを設立し、全国のYPを支援することを計画中。

### 6-3 Life Members

資料 (6-3)

報告 : LM Coordinator

2021年の活動報告としてLMAGが成立していないセクションのLife Memberへのサービスを行った。JC内で新規LMAG設立を支援した結果、札幌LMAGが設立され10/31に記念行事を開催した。イベント報告書をR10のCommitteeに送付した。内容はLMAG札幌の設立やLMAG福岡の設立状況などを記載している。JC内のLife Memberサービスとして、各LMAGイベントをお互いに共有しており、LMAG設立のないSectionでもオンラインで参加できることは大きな利点であった。来年の計画は新規のLMAG設立支援を考えている。福岡SectionはYPも設立されていないので、Life Member同士の情報交換や、他のAffinity Groupと協調を図り、連絡会議を作ることも検討したい。

### 6-4 Educational Activities

資料 (6-4)

報告 : EA Coordinator

Engineer SpotlightのWebinarを月1回のペースで開催しており、第18回にITS Society Tokyo Chapterとの共催を行った。広島支部主催のHISS合同企画のうち招待講演イベントを共催し、支部EAとの協力関係の実績を残すことができた。2022年の計画は、Webinar登壇に興味のあるChapterがないかCOCに伺っていく。イベントを開催できた支部もある一方で、マイルストーン講演会の策定に関し、著作権の問題や企業との交渉の兼ね合いですぐに開催が難しいという支部もあった。予算はほぼ申請通りに執行。2022年も同規模の予算申請となるが、Zoomのアカウント料金も含めて計上している。

### 6-5 Women in Engineering

資料 (6-5)

報告 : WIE Coordinator

10/31に開催されたJapan SYWL Workshopの支援を行った。11/6に東京信越WIEが主催し国内全WIEが共催して開催されたWIE2021の支援を行った。WIE2021は約70名がオンラインで参加。予算は、WIE Coordinator 予算として考えているが、東京信越

WIE が R10 WIE fund を獲得したためその費用を使用し、差額を WIE 予算として執行した。今年度のイベントは全てオンライン開催だったが、来年度以降は対面やハイブリッドでの開催を検討したい。12/8 に第 2 回全支部 WIE Chair 会議を開催した。会員が減った支部は無く、同一もしくは増加の状況であり特に東京信越に関しては 10 名増加となった。依然としてマンパワー不足のため、支部間で連携していくことが必要。来年の活動計画は、会員を増やすことや WIE 連携強化を行いたい。女性エンジニアのランチ会「MIRU」は好評で、開催希望の声があるため Coordinator 予算から支援を検討。WIE2022、Japan SYWL Workshop は秋に開催予定。

11/9 に内閣府男女共同参画推進連携会議に参加した。JC Chair が団体会員推薦議員となっており、WIE Coordinator が代理で出席。男女共同参画学協会連絡会に IEEE JC として参加するのが良いと考えており、方向性を探っていきたい。

#### ■質疑応答（議題 5-6）

##### 【質疑】 6-1 Membership Development

資料（6-1）

Past Secretary：東京支部ではシニアメダルを 4 月下旬～5 月に発送している。その際に受賞者にアンケートを取っており、ポジティブな意見を頂いているので、JC MDC の中でも共有して頂いた。各支部の中で授与までのプロセスへの戸惑いや、ベストプラクティスの共有が進んでいるのか。今後もアンケートを取る予定はあるか。

JC Secretary：東京支部ではアンケートを取る予定。全国的に実施するかは MD Coordinator を通した方がスムーズである。

MD Coordinator：MD 会議の中で、感想の共有や授与のプロセスを共有している。来年も同様の方法で情報収集すべく協力を呼び掛けている。来年の発注数の確定が必要のため過不足がないよう各支部 MD Chair と情報交換しながら、議論していきたい。

##### 【質疑】 6-4 Educational Activities

資料（6-4）

MGA ARC Past Chair：EA は Engineer Spotlight を中心に活動していると思うが、IEEE では教育が非常に重要である。Education という観点では IPC などと連携し、日本の中でどのように教育活動にフィードバックするか、本部との連携も必要になる。

EA Coordinator：本部からどのような要請が来るか、そのあたりの情報を含めて検討していきたい。

JC Secretary：EA 全体報告について補足説明があればお願いしたい。

EA Coordinator：Engineer Spotlight について、オーガナイズの提案や専門領域にいる方の紹介を頂きたい。来年は支部や Chapter、SAC のマンガプロットコンテストとも連携して企画をするなど、手が届かなかった範囲に EA が取り組んでいきたい。

Coordinator の選出に関しても JC 役員で整備、協議頂きたい。

JC Secretary：EA Coordinator にはデジタルの日に祝意を示し、IEEE DAY 関連のイ



イベントを開催頂いた。具体的な説明をお願いしたい。

**EA Coordinator** : IEEE DAY の日は講演会を 10/5 に開催、IEEE 非会員の方や MGA 活動には触れてこなかった会員の方も巻き込んで、共に祝うことができるイベントを考案した。最初に簡単な IEEE の紹介や秋に開催されるイベントを紹介した。クイズ大会を開催し、東京支部 TPC や JC、ジャパンオフィスの協賛を頂き景品を出すなど、話題の種にもなった。

#### 【質疑】 6-5 Women in Engineering

資料 (6-5)

**MGA ARC Past Chair** : 来年の WIE2022 は東京信越が主催と話があったが、JC のファンクションを考えると来年は関西支部の WIE が中心となるなど、順番に行う方が全体としては良いのではないか。仙台支部 WIE の具体的な取り組みを教えて欲しい。

**WIE Coordinator** : 方向性としては、WIE 全体で回すことは Chair 会議でも確認した。対面開催を望む声もあり、それに関しては東京支部がノウハウを持っていることに加え、全国規模の開催ではハイブリッド形式も検討が必要となるため、マンパワーがある支部で 1 度主催し、2023 年から全国 WIE で回していく方法が良いと考えている。

仙台支部 WIE はマンパワーが少ない中、頑張っている。イベントは全てオンラインで開催だがオンラインだと講師の方と懇談ができないため記念品を贈呈することとし、贈呈式の形で役員が訪問して意見交換をした。内閣府の会議に出席した際、女性をターゲットにした会議には男性が全くいないということが話に出た。IEEE JC のように女性がリーダーシップを取り、仙台 WIE は男性が担当しているようなタッグは稀なように思うので、その旨も含めて広報ができれば良いと考えている。

**JC Chair** : 男女共同参画学協会連絡会への参加の可能性はぜひ検討したい。この学協会への参加はどのような形式でやれば良いか **WIE Coordinator** に検討頂き、必要であれば 3 月の理事会で審議事項としたい。

**WIE Coordinator** : 内閣府の資料は是非確認頂き、継続的に議論ができれば良い。

**JC Secretary** : マンガプロットコンテストの作品は、主人公はすべて女性。JC Chair や SAC Chair と、男女共同参画学協会やリコチャレなどにもマンガ作品を広報していくことを話している。WIE Coordinator も話に入って頂きたい。マンガを考案した学生は就職予定なので、YP にも関わることになる。

#### 7. 2021/2022(注:2023/2024)役員選挙スケジュールおよび Nominating Committee 選出 (審議) 資料 (7)

JC bylaws に基づき、JC Chair から、JC NC Chair の指名が行われた。2023 年～2024 年期の JC NC Chair として Past Secretary が指名された。

報告 : NC Chair

NC は Officer の選出に関する手続きを行い、期間限定で活動する委員会である。主な

活動は 2022 年に行うが、早期にスケジュールを共有し、アクションの準備をして頂きたい。本日 NC 委員会が発足し、メンバーは 3 人の委員で構成される。そのうち 1 名は支部に依頼したく、アルファベット表記順と決まっているので今回は広島支部に委員となって頂く。実際の活動として、来年の第 1 回理事会で候補の指名を依頼し、候補の推薦は Voting Member、現 Officer、理事会承認理事にお願いすることになる。Voting Member からは必ず推薦に関わる回答を頂く。4/18 にノミネーティングのメッセを設け、NC の中で候補者リストを作成。第 2 回理事会でそのリストの共有を行う。各役職について候補者が 1 名の場合はその場で承認を得て決定するが、複数の候補者がいた場合、9 月から 10 月にかけて選挙となり、2022 年の後半に決定する運びである。3 月の理事会で正式に指名依頼をし、1 ヶ月以内に返答を頂きたいため、Voting Member には準備をお願いしたい。

## 8. 各支部 2021(注:2022)年活動計画および前回理事会以降の活動報告 資料 (8)

### 8-1 札幌支部

資料 (8-1)

報告：札幌支部 Secretary/Treasurer

2021 年の活動として理事会総会を開催し、令和 3 年度電気・情報関係学会北海道支部連合大会に共催した。主催事業として、IEEE 論文国際会議で発表した中から優秀な論文を表彰する IEEE 札幌支部若手研究者年間優秀論文賞の選定を行った。会員数増強を目的として新たに入会した Student Member に対する学会活動支援や学会発表支援を行っている。10/31 には MAW2021 を「データサイエンスが加速する異分野連携と社会思想」のテーマで開催。MAW 翌日には札幌 LMAG が設立されたことを記念してキックオフ式典、LMAG 総会、記念講演会などのイベントを開催した。予算執行状況は Section Rebate や JC からのイベント支援費などが収入となり、支出は MAW や LMAG 設立記念イベント、YP 表彰など。2022 年は理事会総会に加えて、本年同様に若手研究者年間優秀論文賞、札幌支部の Student Paper Contest を行い、会員数増強の施策も実施予定としている。予算は前年より支出を少し多く計上しているが、執行状況により繰越の可能性もある。

### 8-2 仙台支部

資料 (8-2)

報告：仙台支部 Chair

2021 年第 2 回の JC 理事会を仙台にて皆様の協力を得て開催できたことを感謝したい。12/15 に特別講演会を開催。仙台支部では 2011 年の東日本大震災以降、復興に関わる特別講演会を毎年企画していたが、その経験を活かした支援を考えていたところにコロナ禍が到来した。そのコロナ禍に関する研究をしている IEEE 関係者に講演会を依頼し、オンラインにて実施。8/26-27 には Student Session を開催し、英語での発表に対して優秀論文への Award 進呈を行った。仙台支部主催で英語論文執筆セミナーを開催し、大変好評で多くの参加者が集まった。1/27 は IEEE 仙台 Section LMAG, WIE, YP の合同講演

会を開催。仙台 WIE Chair は男性が務めており、男性が参加することにより Section としてのオーガナイズにも貢献できると考えている。WIE は女性だけの集まりではなく、男女共同参画が目的なので、十分な活動が実現できることを期待している。

#### 8-3 信越支部

資料 (8-3)

報告：信越支部 Chair

支部内の役員会を 3 回実施した。学生だけでなく生涯教育の観点で、EA の取組みとして来年に社会人対象セミナーを開催したい。Epson のプリンターのマイルストーン申請を準備中。信越支部主催の IEEE Session は毎年 9 月に電子情報通信学会の信越支部大会と合同で行っており、オンラインで開催した。発表に対して 4 件の賞 (Young Researcher Paper Awards ,Best Poster Presentation Awards) を頂いた。WIE は東京信越が活動しており、Secretary が積極的に関わっている。「MAG-33 信越 Chapter」は Chapter と連携して開催しており、マグネティックス研究会への協賛を行っている。来年は本年同様の活動を継続するが EA、HC にも取り組んでいく。予算執行は例年通り。

#### 8-4 東京支部

資料 (8-4)

報告：東京支部 Chair

前回理事会以降、9 月と 12 月に理事会を開催し、東京支部としての講演会を 4 回行った。マイルストーンは、新たに座席指定システム MARS の申請を依頼している。東京 YP が 11/13 の TOWERS 開催を支援。LMAG は Achievement Award を受賞し、セレモニーを機械振興会館で実施した。Tokyo Bulletin は前回の報告以降 4 件発行し、R10 News Letter は 7 月号と 10 月号に東京支部関連の記事が掲載された。ホームページの応答速度改善に向け対応を進めており、年内に完了の見込み。東京支部 EA として主催イベントを行い JC EA の委員会にも参加している。2022 年の活動計画は、理事会を 4 回開催予定。アフターコロナを見据えオンライン/オフラインの両面から会員獲得、継続、学会加入価値向上を目指して積極的な運営を行う。Affinity Group 関連もイベント活動を行う予定。

EA 関連でもイベントを開催し、Industry Promotion の強化として MAW 四国支部の支援を行っていく。Chapter 支援費の Section 移行は JC COC 役員と移行に関する議論を予定している。

#### 8-5 名古屋支部

資料 (8-5)

報告：名古屋支部 Chair

前回理事会以降、役員会・拡大理事会を 2 回オンラインで開催。Formation of the IEEE Kansai and Nagoya Jt Section, Product Safety Engineering Society Chapter を推薦し、後日このジョイントチャプターが成立していることを確認した。授賞活動として、12 名の Senior Member 昇格者に対してメダル授与式を 10/9 にオンラインで実施し、受

賞者からコメントを發表して頂いた。北陸支部連合大会の發表者 2 名、東海支部連合大会の發表者 6 名に対して名古屋支部学生奨励賞を授与。過去 3 年の会員数が 2021 年 Membership development goals に到達したことに對し、メダル画像が IEEE MGAMRR Committee から送付された。主催共催行事が 3 件、協賛行事が 15 件となり、このうち学生同士の複数の研究室が集まる發表会は、若手に対する刺激となり IEEE のプレゼンスを出している。2022 年の計画ではマイルストーンの受賞を 2 件予定している。QR コードに関してはマイルストーン贈呈式が未開催。シニアメダルは積極的に授与できるよう取り組んでいき、SB の新規設立も働きかける。予算はインセンティブを新たに頂ける通知を受けた。その他はおおむね昨年通りとなる。

#### 8-6 関西支部

資料 (8-6)

報告：関西支部 Vice Chair

8 月に関西 EA の初イベントを開催。9 月に YP と WIE のイベントを行い、TPC 技術講演会を 1 回ずつ開催した。2022 年は例年通りのイベントに加えて新規イベントを計画中。YP 主催で SB との交流イベントを新たな活動計画として取組み予定。企業会員増加目的として、企業への価値向上にも取り組んでいきたい。SB 支援費は SAC と連携して活性化を進めていきたい。MAW と SYWL への派遣も前向きに検討中。関西支部もコロナウイルスの影響で支出が増えない状況のため、繰越金が増えている。25 周年記念イベントの費用に充てることを想定し、2023 年に向けて 2022 年から費用を積み、繰越金を適正な金額に戻していきたい。

#### 8-7 四国支部

資料 (8-7)

報告：四国支部 Vice Chair

9/25 に総会を開催。総会と併催して関係する 8 つの学会と連合大会を実施した。サイバーセキュリティシンポジウムなどのテクニカルミーティングもすべてオンライン開催となっている。Committee の活動は Senior Member のアップグレードや昇格を促すキャンペーンを実施し、その結果 6 名の申請支援が実現できた。英語ブラッシュアップ講座は各県で実施。WIE は福岡や広島と合同でシンポジウムを開催企画し、R10 fund を頂いたと報告があった。来年度活動計画は MAW2022 を徳島大学で 10 月開催予定。四国の企業に依頼をし、四国の特徴を出せるものを考えている。ぜひ有益なイベントにしたい。

#### 8-8 広島支部

資料 (8-8)

報告：広島支部 Chair

イベントはすべてオンラインで実施。鳥取で開催された国際会議 ISCIT は広島支部主導で特別セッションを企画。昨年の学生シンポジウムで研究賞を受賞した論文 8 件を世界に発信してプレゼンスを示した。WPMC 無線関係の国際会議は岡山にてハイブリッド

開催された。世界初といわれている学生が企画運営をする学生シンポジウム（HISS）を11月末に開催、無事に成功した。41名の実行委員が企画運営し、200名以上が参加。今回は様々な Committee にも支援頂き、WIE 四国福岡広島支部賞を作ったほか、EA と招待講演を共同企画し第 21 回の Engineer Spotlight として配信を行った。2021 年の功績賞として、広島工業大学の浜崎先生が受賞決定。また、会員数増加の活動として MGA から Award を受賞した。2022 年 7/15 に第 2 回 JC 理事会が広島で開催される予定。

#### 8-9 福岡支部

資料（8-9）

報告：福岡支部 Chair

他支部と同様、繰越金が多くなっている状況の見直しをしている。福岡支部内の理事会は 2 月と 6 月に既に開催しており、12 月末に第 3 回理事会を開催する。R10 から Best Membership Retention Medium Section Award を表彰される予定。学生研究奨励賞の募集要項を掲載し、31 名の応募があり現在審査中。来年の第 1 回理事会にて表彰者を決定する。来年は例年通り福岡支部理事会を開催予定で、9 月の理事会では研究奨励賞の方針を決める予定。

#### ■質疑応答（議題 7-8）

【質疑】8-5 名古屋支部

資料（8-5）

R10 Past Director：エデュケーションセレモニー（マイルストーン贈呈式）は華やかにする必要はない。オンライン開催でも可能なので是非進めて頂きたい。

名古屋支部 Chair：華やかにする必要はないと思う。開催形式については相談する。

Past President：以前、名古屋で受賞対象企業の方がコロナウイルスで開催ができないと発言されていた。

名古屋支部 Chair：過去のセレモニーが大規模だったため、その形式で検討していると思われる。まず表彰式を行い、別の日に改めて開催を検討する考え方も良い。来年の早い時期に開催できることを期待している。

HC Chair：セレモニー（贈呈式）では銅板（マイルストーン銘板）を渡している。銅板を渡す機会があれば良い。

名古屋支部 Chair：シニアメダルの授与も郵送とオンラインで華やかにできているので、コロナウイルスがまた蔓延し、当分開催が難しいとなればマイルストーンもオンラインで華やかに授賞式を行うのも良いと思う。企業によってコロナ対応の方針が決まっているため、人が集まらなくても良い方式で開催をするか、様子を見るかのどちらかになる。しばらく待つて頂きたい。

JC Secretary：コロナウイルスの状況を見て、適切な方向性で進めていきたい。

【質疑】8-6 関西支部

資料（8-6）

関西支部 Vice Chair : 後期の Section Assessment の入金の確認できない。原因を教えてください。

事務局 : Assessment は本部に請求しないと送金がされない。本部の担当者へコンタクトして頂きたい。コンタクトをしているのに応答がない場合は JC 事務局に相談して欲しい。

【質疑】 R10 Section Incentive の件 (議題になし)

R10 Past Director : R10 の Section Incentive を多くの Section が受け取っている。R10 の OpCom Member として採点に加わったが、WEB リンクのエビデンスを確認する際、日本語のページしかない場合が多くある。前回 LMAG 東京が Achievement Award の受賞を逃した理由も、日本語ページしかなかったという理由であった。減点基準を今回から設定しており、ページ数が多すぎることも減点対象になる。是非 WEB サイトの英語ページの充実をお願いしたい。

9. 2022 年 Japan Council 活動計画 (審議) 資料 (9)

報告 : JC Secretary

来年の理事会の日程を決めており、7/15 の第 2 回 JC 理事会は広島にて開催予定。Chair や Coordinator から来年の活動計画を提出頂いたので、この提案で進めてよいか確認をお願いしたい。

議題 9 について、異議なく承認された。

10. 2022 年 Japan Council 予算 (審議) 資料 (10)

報告 : JC Treasurer

Section Assessment は昨年同様の還元率。レートは昨年最後の理事会と同様、直近のドルレートから 5 円引いた 107 円で算定した。収入の部は主に各支部からの拠出金となり、支出は来年コロナウイルスが今年よりも収束することを見込んで、各計画を昨年よりも多く見積もっている。MAW は昨年とほぼ同様の計画、SB はマンガプロットコンテストを含め昨年よりも多い。Section 支援費はより多くの支出計画をお願いしたい。

Section 支援費は 6 件 (名古屋支部 5 件、広島支部 1 件) あがっており、学生会員募集について、学生奨励賞や支援費、学生シンポジウムについてなど。活動報告で発表があったものの継続となる。

議題 10 について、異議なく承認された。

11. その他 資料 (11)

11-1 MGAARC 関連のトピックス 資料 (11-1)

報告 : MGAARC Past Chair

11 月に承認された MGA Individual Award の個人賞をリストアップした。Friend of IEEE MGA Award は今年は 2 件の受賞が決定している。

#### 11-2 JC Awards and Recognition Committee の新設について 資料 (11-2)

報告 : JC Chair、MGAARC Past Chair

R10 や Headquarters の Award はインターナショナルに活動しないと取ることが難しい。国内で奮闘しているボランティアの方をハイライトするためにも、支部で Award を設置したい。突然支部で Award を設置するのは難しいので、JC で日本全体の意味を込め、Award の設置を考えている。Technical な Award ではなく、MGA Award とする。

日本はボランティア活動に対する Award 授与が世界的に見ても非常に遅れている。目的はアウトスタンディングな貢献をした方を表彰すること、Section の中で Award 活動を立ち上げ、Section 内で多大な貢献をした方を表彰すること。まずは日本全体で Council や複数の Section に対してインパクトを与えたボランティアを表彰していきたい。

Award を設けるには Committee の設立が必要。まずは Adhoc な Committee として委員会を立ち上げ、Chair 等の役員や各支部の代表者が入る構成を想定している。従来から JC AC が存在しているが、これは IEEE Corporate Award のノミネーションを推進するものであるため、本 Committee とはミッションが異なる。

今後のスケジュールは、次回の JC 理事会で承認を得た後 Call for Nomination を出し、来年中に受賞者を決定していく。理事会までにメールベースでの打合せを考えており、再度趣旨をメールでも提案をし、最終的に 3 月の理事会で正式承認を得たい。

#### 11-3 周年記念イベントに関する意見集約と今後の進め方 資料 (11-3)

報告 : JC Secretary

2023 年に信越支部以外の 8 支部が創立 25 周年を迎える。各支部には記念イベントの開催について意見を求め、整理をした。過去、2017 年に旧東京支部 60 周年、2016 年には信越支部 10 周年、2018 年には広島支部 20 周年の記念イベントを行っている。今後対象になっているのは 2023 年の 8 支部 25 周年、翌年の JC25 周年と翌々年の旧東京支部 70 周年。現時点で、仙台、関西、広島については単独で開催希望、札幌は検討中、東京、名古屋、四国、福岡は他支部または JC と共同で開催を希望している。これを踏まえ、LRSC において各支部の希望に沿う形で行うことを合意した。広島支部においては、既に 20 周年記念イベントを 2018 年に開催しており、その際 JC から予算をサポートしているため今回の 25 周年については予算支援ができないことをご了解頂きたい。

開催形式については再検討が可能。来年の第 1 回 JC 理事会で最終の考えを伺う。そのうえでタスクフォースを立ち上げるため、単独開催の場合はスケジュールを報告頂きたい。2023 年は幹事会社が交代となっているため、次期幹事会社を中心に対応し、現 Secretary は支援に回る。

#### 11-4 情報サーバの利用促進について

資料 (11-4)

報告 : Past Secretary、JC Secretary

ファイル共有サーバ **Garoon** をより活用させたい。情報共有のほか、メンバーが交代した際に過去の経緯が不明となる問題を防ぐため、アーカイブ化を目的としたい。ぜひ重要な活動内容や必要なもの保管し、活用推進をお願いしたい。各委員会の会合資料は年度を明記しておき、2-3年先にも使えるものがあれば保管する使い方をして欲しい。

既に **Garoon** 以外のサーバを使用している委員会もあるが、アーカイブ化を図るためにも必要な資料は **Garoon** にも置いて頂きたい。ファイル共有だけでなくカレンダー機能も活用して頂き、eNotice で配信されている JC イベント案内はカレンダーに入れ、各支部や委員会で重要なイベント等も記して欲しい。一般会員向けのスケジュール情報は機能が無く、今後整備が必要と考えている。

#### ■質疑応答 (議題 9-11)

【質疑】 11-1 MGAARC 関連のトピックス

資料 (11-1)

R10 Past Director : 広島支部は昨年 **MAW** を開催、今年は **HISS** の招待講演を **Engineer Spotlight** に出しているため、紹介があった「**Supporting Friend of IEEE MGA Award**」は候補に挙がるのではないかと。是非ご検討して欲しい。

MGAARC Past Chair : MGA の受賞基準は1年間分の貢献である。ぜひ一度トライ頂きたい。

【質疑】 11-2 JC Awards and Recognition Committee の新設について 資料 (11-2)

Past Secretary : 受賞者にジャパンメダルを進呈とあるが、このメダルは Senior Member 昇格の際に授与されるメダルのことか。

MGA ARC Past Chair : 趣旨が少し違うと思われるので、「メダルの授与」については再考し、次のバージョンで変更予定。

【質疑】 11-3 周年記念イベントに関する意見集約と今後の進め方 資料 (11-3)

HC Chair : 関西支部はなぜ単独開催なのか。

関西支部 Vice Chair : 単独開催希望の声が多かった。また、複数支部で連合すると調整が厳しくなる。

コロナによるオンライン開催の状況が続くなら予算を掛けて基調講演の開催をするのも良いが、コロナが落ち着いた状況になり各支部が分散して開催することになるとそのメリットが薄れるのではないかと。

JC Secretary : 各支部の意思を尊重するため、Secretary からは敢えて支部の形式希望は共有しなかった。形式希望の変更は可能なので、今回の結果をご覧になり、総合的に判



断して頂ければ良い。

**Past Chair**：2024年の**JC25**周年が首都圏で開催されるのなら、関西支部の独自開催は良いと思う。**Past Chair**等の多くの方々を首都圏に送ることは旅費の関係も厳しくなるため、過去に幹事会社を担当していた関西支部の歴代**Chair**や**Vice Chair**が集まって頂く機会があるのは良い。2023年は支部単独で行い、2024年は**JC**のイベントに参加する形式で2回開催する方法でも良いと感じた。

**JC Secretary**：時期をずらして2024年に向けて盛り上げていくのも良い。様々な提案を待っている。

【参考】IEEE Japan Council メール審議記録

報告：JC Secretary JCメール審議記録は前回の理事会以降7件あった。

【参考】Region10からのメール連絡一覧

報告：JC Secretary R10からの通達は1年間に200件を超えている。

以上